

第17回日向方斉学術振興交付金の希望者募集案内

▶申込締切日・1991年8月30日(金)◀

本会では住友金属工業株式会社から当時の取締役会長日向方斉氏の功績記念のため寄贈された金六千万円の資金をもって鉄鋼関係学術振興のため「日向方斉学術振興交付金制度」を設置しておりますが、標記のとおり募集をすることになりました。希望者は所定の申請書様式(本協会にご請求下さい)により応募して下さい。

記

1. 本制度の目的

大学、研究機関等にいる鉄鋼関係の若手研究者が海外で開催される国際研究集会(これに準ずるものを含む)に優れた研究成果を発表するために必要な渡航費等を支弁することを目的とする。

2. 応募資格

1) 国公立の大学、工業高等専門学校または国公立研究機関(特殊法人を含む)に在職中または在学中の本会会員(正会員、学生会員)で、2) 国際研究集会の開催時の年齢が43歳未満でありかつ、3) 本会会誌またはその他の学術的刊行物に研究成果の発表をしたことのある者。

ただし1989年1月以降に本交付金を受領した者は除く。

3. 対象国際研究集会

1992年1月から1993年12月までに開催される国際研究集会で技術分野は、本会が春秋に行っている講演大会の範囲の集会、なお原則として同一の国際研究集会に複数名は出席できません。

4. 支弁する交付金の内容

1) 航空運賃(必要最少限のエコノミー料金)、2) 滞在費(集会開催日の前日から終了日の宿泊まで)、3) 参加登録費

5. 申請方法 本会所定の申請書様式により本人が申請する。

“記入内容の概略”

1. 住所、氏名、生年月日、所属職名、正会員・学生会員の別
2. 過去の研究業績(本会会誌またはその他の学術的刊行物への投稿論文、共著者名記載)
3. 出席する国際研究集会の名称、主催者、会期、開催地
4. 発表する論文の主な内容(共著者名記載)
5. 参加資格(座長、招待講演者、一般講演者等の別)
6. 必要経費の概算額
7. 他機関への旅費等の申請の有無
6. 交付件数 5件以内
7. 受給者の義務
 1. 出席報告書の提出(原則として会誌「鉄と鋼」に掲載)
 2. 発表論文(写)の提出
8. 申請書様式請求先及び申請書提出先
〒100 東京都千代田区大手町1丁目9番4号
経団連会館3階
社団法人 日本鉄鋼協会 総務室
(Tel. 03-3279-6021)
9. 申請書締切日 1991年8月30日(金)
10. 交付決定通知
交付決定者には1991年10月9日までに通知し、本会会誌に氏名、発表する国際研究集会名を掲載する。

☆☆☆☆☆☆☆☆

ISO 幹事国活動

1. 国際規格発行に関する進捗状況

DIS が登録されたもの: 1件

DTR 9769 (SC1): 分析方法の概要(第3版)

2. TC 17(鉄鋼)関係

(1) TC 17 総会準備

- ① 第1次の議題案を作成し各国へ配布した。
- ② 工場見学を実施するかどうかは未定であるが、もしやるとすればどのような対象があるか(京都立地の大企業)を調査した。
- ③ 欧州主要国との下打合せのアポイント取得を開始した。

(2) 先端分野の標準化

中央事務局は先端分野については技術が確立してしまいう前に標準化を進めたいと考えており、TC 17 事務局に対し「人工臓器用の材料の標準化についてどう考えるか」との質問があった。これについて SC 4 分科会に諮問した。

- (3) SC 20 国際会議日本開催が当事務局窓口で依頼されていた件につき、鉄鋼 ISO 運営委員会の賛同、標準化委員会の承認が得られたため、「実務レベルのオーソライゼーションがとれた」ことを連絡し、かつ主査会社を紹介して今後主査会社(SC 20 国際会議組織委員会)と相談するよう依頼した。

3. TC 17/SC 1(化学成分分析)関係

Publication stage (stage 5)

- (1) ISO 10280 (Ti-吸光光度法): 中央事務局よりの規格校正刷り(1991.2.28 付)に訂正を加え返送

(1991.3.22).

(2) ISO/TR 9769 (分析方法概要) の 1991 年版 (第 3 版)

原稿を中央事務局に送付し受理された(1991.3.25).

4. TC 67/SC 5 (油井管) 関係

(1) TC 67/SC 5 Membership の登録

ブラジルより P メンバー, イランより O メンバーとしての登録があり, 3 月末現在, P メンバー 10 か国, O メンバー 6 か国となった.

(2) TC 67/SC 5 の運営について

第 3 回 TC 67/SC 5 諮問部会 (3 月 20 日開催) において下記の方針を決定した.

① API Spec 5CT, 5D の ISO 化は TC 67/SC 5 自身において推進し, Working group は設置しない.

その他の API 推薦方法, API プレテンは上記作業完了時に方針を考える.

② API Spec 5CT, 5D の ISO 化の技術的検討は終了し, 4 月中旬を目標に Document の作成を考える.

③ Liaison は TC 5/SC 1, TC 17, TC 135, TC 164 及び API との間にて考えることにする.

5. 国際会議 (向こう 3 か月間の予定)

(1) TC 17/SC 19 (鋼管)

1991 年 6 月 5~7 日, ミラノ

(2) TC 17/SC 4 (特殊鋼)

1991 年 6 月 16~21 日, デュッセルドルフ

(3) TC 67/SC 5 (油井管)

1991 年 6 月 4 日, サンディエゴ

☆☆☆☆☆☆☆☆

//////////////////////////////// 原稿募集 ////////////////////////////////// 「鉄と鋼」特集号 //////////////////////////////////

製鉄プロセスにおける現象とモデル化

原稿締切日 平成 3 年 11 月 8 日 (金) 締切日厳守

平成 4 年 7 月号 (第 78 年第 7 号) に上記特集号を企画しております. ここ数年, 国内の好景気に支えられ, 我が国の粗鋼生産量も 1 億 t を超える高生産が続いております. しかし, 一方では, 劣質資源の活用, 省エネルギーも含めた CO₂ 削減技術等, 将来型プロセスの開発に期待がよせられています.

最近の製鉄プロセスにおける研究状況を概観しますと, 原料分野においては, 焼結機操業の歩留り向上, 低品質原料の使用可能な焼結法や新塊成化法の開発, コークスの分野では, 乾留反応の制御法, 一般炭の使用技術, 高炉においては, 新装入物分布制御法, 微粉炭多量吹込み, AI や数学的モデルによる操業管理などに長足の進歩がみられます. また, 基礎的研究としては, シンターケーキ構造の研究, 高炉下部の移動現象論的研究, 新プロセスに関連して, 熔融還元法や酸素高炉法, 成型炭製造技術など大型のプロセス開発の研究も実施されています.

本特集号においては原料, コークス, 高炉製鉄法, ならびに, 開発が進められている将来の製鉄技術に関連して基礎科学的, および, 応用技術的研究を幅広く募集いたします. 論文等多数の御投稿をお待ちしております.

1. 原稿締切日 平成 3 年 11 月 8 日 (金)

2. 発行 「鉄と鋼」 Vol. 78 No. 7 (平成 4 年 7 月号)

3. 原稿枚数 論文刷り上がり 8 ページ以内

(表, 図, 写真を含めて本会原稿用紙 40 枚以内)

(注) ・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆して下さい.

・投稿された論文は和文会誌分科会において審査されます.

4. 問合せ・原稿送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

(社)日本鉄鋼協会 編集・業務室 和文誌特集号係 (担当: 坂井) 電話 03-3279-6021 (代)

(注) 投稿時, 原稿表紙に「製鉄特集号」と朱書して下さい.